

大阪民衆史研究会報

2026年4月号
第33巻第4号
(通巻365号)

発行 大阪民衆史研究会 (代表 林 耕二)

E-mail: osaka.minshushi@gmail.com (オーサカ ドット ミンシューシ)

例会のお知らせ

◇4月例会 府庁周辺をめぐるフィールドワーク 案内は林ほか数名

日時 4月13日(月)午後12時45分府庁正面集合

行程 12:45府庁正面集合→府庁内「正庁の間」→「知事公邸」→

大阪府警(大阪憲兵隊本部跡)→大阪城内城南射撃場跡→衛戍監獄跡

→第4師団司令部跡(アメリカ兵捕虜の軍律裁判の部屋)5時頃解散予定。

内容 府庁本館「正庁の間」は、大正時代のモダニズム建築の様式が復元された部屋。知事公邸(大阪府公館)は、大正時代に建てられ歴代知事の公邸だったが、橋下徹元知事が解体を主張。今、維新府政のもと解体が検討されている。府警本部南東部にあった大阪憲兵隊本部は、1956年に解体され府警庁舎が建てられた。衛戍(えいじゅ)監獄跡は大阪城内にある陸軍の監獄跡地、反戦川柳の鶴彬が収容された。現在、「ミライザ大阪城」として商業利用されている陸軍第4師団司令部跡は1931年にドイツ風の建築様式で建てられた陸軍の師団司令部跡。捕虜となったB29搭乗員のネルソン少尉とオーガナス軍曹は、ここで軍律裁判を受け、即日和泉市福瀬の戦闘射撃場に送られ処刑された。(参加申込は上記大阪民衆史アドレスへメールまたは、林の携帯 090-6800-1111へ)

◇5月例会

日時 5月10日(日)午後1時半開場、2時開会 大阪府教育会館桃の間

報告者 川口真吾さん(東大阪市立孔舎衙小学校教諭)

「大阪陸軍刑務所と戦後の河内特別少年院」

大阪陸軍刑務所と、後継施設の大阪刑務所石切刑務支所、河内特別少年院をみていく。これまで陸軍刑務所の在監者の体験記はあるが、陸軍刑務所という施設に焦点を当てた研究はほとんどない。郷土史としても河内特別少年院について書かれた本も少ない。これらを研究することは戦中の行刑史としても、戦後の郷土史としても意義のあるものと考え。特に、在監者や収容少年の処遇が「力による制圧」から「地域への対外活動」「処遇の個別化」という変遷を概観することで、戦中戦後の行刑及び矯正教育における「人間観」をみていきたい。

参加費 会員400円、非会員500円